

大学院特別講義のご案内

日時:平成27年 2月 2日(月)午後5時00分～午後6時30分

場所:F棟5階 弓倉記念ホール

講師:内山 健志 先生(東京歯科大学 名誉教授)

演題:口唇裂・口蓋裂一貫治療①

要旨:口唇裂・口蓋裂は約550人に一人の割合(0.18%)で発生し、心室中隔欠損などの先天性心臓疾患について多い先天異常です。心臓のそれは内臓奇形ですので、外表奇形では口唇裂・口蓋裂が人体の中で最も多い疾患となります。器官形成期において白唇の人中部、CUPID 弓、赤唇の上唇結節、上顎4切歯、同歯槽部、一次口蓋などは内側鼻隆起下方の顎間部から発生するので、上唇と歯と口蓋は、それぞれ密接な関係を有しています。興味深いことに、胎生期の8週までヒトはだれでも母体の中で口唇裂、口蓋裂の状態にあります。

口唇裂・口蓋裂の患児は、哺乳障害など多くの障害を持ちながらこの世の生を受けます。生まれながらにして口唇裂は顔の正常な美しさが、口蓋裂は正常な鼻咽腔閉鎖機能が損なわれています。したがって初回に行われる口唇裂一次手術(口唇形成術)は患児の一生の顔の審美を、口蓋裂一次手術(口蓋形成術)は一生の言語機能を左右するといっても過言ではありません。本質的な治療は本疾患が形態異常ですので、手術療法が主体になります。術者には臨床解剖の識見に裏付けられた精緻な手技のCRAFTSMANSHIPすなわち匠の精神が求められます。くわえて抽象的ではありませんが、著者は負けない手術、さらに労りのある手術を目指しています。

口唇裂・口蓋裂の一次手術の結果は、それをある程度予測できたとしても二三年先、時には十年先になるという特殊性があります。とくに口蓋裂一次手術後には、言語訓練、咬合異常に対する矯正歯科治療、さらに関連する二次手術の優先順位など、その対策は思春期まで継続します。多岐にわたる口唇裂・口蓋裂の障害を取り除き、患児がハンディのない社会生活を営むようになるためには、出生直後から顎発育が終了するまでの長期間にわたって専門とする臨床各科のきめ細かいチーム医療が必要不可欠です。このように口唇裂・口蓋裂は歯科・口腔外科でとても大切な対象で、その治療においては責任をもち、心して取り扱わねばならない疾患であると思います。

本講義では、手術やチーム医療の根拠となるエビデンスをえた研究の一端を交えながら、臨床面から東京歯科大学における治療概要を述べます。

※大学院生以外の先生方にも多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

本セミナーは大学院特別セミナーを兼ねております。奮ってご参加ください。
問い合わせ先:口腔外科学第一教室 (内線2936)